

日・トルコ外交関係樹立 100 周年事業 イスタンブール演劇祭で山海塾が公演

国際交流基金（JF）は、日・トルコ外交関係樹立 100 周年を記念し、トルコ最大の舞台芸術フェスティバルであるイスタンブール演劇祭で、舞踏カンパニー山海塾による『あわせ鏡のはざまで-うつし』（演出・振付・デザイン：天児牛大、2008 年初演）を上演します。

本公演に先立ち、関連事業として 10 月 17 日（木）には、慶應義塾大学アート・センター土方巽アーカイヴの学芸員で自身も舞踏家である石本華江氏をイスタンブールに派遣し、舞踏についてのレクチャーおよび土方巽アーカイヴが保有する貴重な舞踏作品の記録映像の上映会を行いました。

本事業を通じ、広くトルコの観客や舞台芸術関係者の間で、日本で生まれ世界に広がった舞踏に対する関心・理解が深まることを期待します。



©Sankai Juku

日時： 2024 年 10 月 24 日（木曜日）、25 日（金曜日）20 時～

会場： Zorlu PSM Turkcell Sahnesi

演目： 『あわせ鏡のはざまで-うつし』

詳細： [Utsushi \(iksv.org\)](https://iksv.org)

チケット： [UTSUSHI | Zorlu PSM Turkcell Sahnesi | İKSV Tiyatro Biletleri - PASSO](#)

主催： 国際交流基金（JF）、イスタンブール文化芸術基金（İKSV）、在イスタンブール日本国総領事館

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、小堤）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

プロフィール**山海塾（さんかいじゅく）**

1975 年に主宰・天児牛大（あまがつ うしお）によって創設された舞踏カンパニー。1980 年より海外公演を開始し、ヨーロッパ、北米、中南米、アジア、オセアニアなど、世界 48 か国のべ 700 都市以上で公演を行う。現在は主にフランスと日本を創作活動の本拠地として、およそ 2 年に 1 度のペースで新作を発表し続けている。

作品は演出・振付のほか、空間や衣裳のデザインも総合的に天児氏が創作している。天児氏は一貫して舞踏を「重力との対話」として捉え、「誕生」「死」といった普遍的な人間の内的本質に迫り、高い評価を得る。

2001 年に第 33 回舞踊批評家協会賞受賞。2002 年には『遙か彼方からの—ひびき』のロンドン公演に対し、イギリスのローレンス・オリヴィエ賞最優秀新作ダンス作品賞（Laurence Olivier Award for Best New Dance Production）を受賞。2013 年に国際交流基金賞を受賞。

公式サイト：[アーティスト | BUTOH \(sankaijuku.com\)](http://www.sankaijuku.com)

参考サイト：[天児牛大氏インタビュー \(Performing Arts Network Japan\)](http://performingartsnetwork.jp)



©Sankai Juku

石本 華江（いしもと かえ）

現職：慶應義塾大学アート・センター土方巽アーカイヴ担当

4 歳よりダンスを開始、2002 年より和栗由紀夫＋好善社、2003 年より Co.山田うんの活動に参加する。主な客演としてレニ・バツソ、パパ・タラフマラ、富士山アネット、木ノ下歌舞伎の作品。dreamthinkspeak(英国)、ユーリ・ン(香港)、Amareya Theatre(ポーランド)、Anikaya Dance Theatre(米国)など海外での出演も多い。また土方巽の作舞法「舞踏譜」を現在に伝えるため研究会 POHRC を日英にて 11 か年に渡り主催し、また自身も講師として香港、インドネシア、メキシコなど 14 か国・地域に招へいされる。ソロ作品も含め、アジアやヨーロッパを中心に 21 か国で上演を行った。慶應義塾大学文学部非常勤講師、及び慶應義塾大学アート・センター所員。



©Aleksandr Sasha Drozd

イスタンブール演劇祭（Istanbul Theatre Festival）について

イスタンブール演劇祭は、イスタンブール文化芸術基金（İKSİV）の運営による国際演劇祭。建国 50 周年にあたる 1973 年に、国際的な文化イベント「イスタンブール・フェスティバル」としてスタート。その後数年にわたって別々のフェスティバルに分割された中から 1989 年に「イスタンブール演劇祭」が創設され、現在は毎年秋に開催、ダンスも含めた国内外のさまざまな舞台作品を紹介している。

以上

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 広報部（担当：熊倉、小堤）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp